

商工会女性部はまちに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

手づくり金魚ねぶたで

文化伝承と

地域振興に貢献

斜里町商工会女性部(北海道)



世界自然遺産・知床の雄大な自然を背景に、オホーツク海に面する斜里町。人口約1万人のこのまちは、海と山に育まれた豊かな自然が魅力です。約40年前に弘前市との友好都市の盟約が交わされたことをきっかけに、門外不出であった弘前ねぶたが斜里町へ伝授されました。以来、毎年7月に「しれとこ斜里ねぶた」が開催され、夏の風物詩となっています。

2013年より女性部事業として

「金魚ねぶた行燈^{あんどん}」を制作し、事業所や町内施設へ飾る活動を続けることで郷土文化の継承に寄与してきました。行燈は直径12〜24cmをその年毎に作成、一つひとつ顔を描き、色付けを行って完成させます。文化の継承元である弘前では、金魚ねぶたは幸福を運ぶ縁起物として親しまれています。

近年は女性部員の人数の減少もあり、伝承が途切れてしまうことも懸念されましたが、4年前から農協、漁協の女

「七島蘭」の魅力を、 おもてなしの心とともに 未来へつなぐ

国東市商工会女性部(大分県)



空港イベントで無料配布する「七島蘭」を使った工芸品

大分県北部に位置する国東市は、神仏習合の文化が今も色濃く残る地域であり、将来的に宇宙港化も計画されている県内唯一の大分空港もあります。また、「クヌギ林とため池がつなぐ農

林水産循環」が評価され、世界農業遺産にも認定されています。

このように豊かな自然と歴史、文化に育まれた国東市で活動する私たち女性部がとくに力を入れているのが、国



性部員とともに制作講習会を開催。若い世代にも金魚ねぶたの歴史を紡ぐ取り組みを進めています。今年からはねぶた運行ルート沿いの金融機関にもご参加いただき、さらにたくさんの方の金魚



上/女性部の半纏にタスキとはちまきをそろえて出陣 左/金魚ねぶたの紙貼り、一番時間がかかる細かい作業 右/顔を赤く染めれば完成

ねぶたが生まれました。今後も、地域の女性部団体と協力しながら活動を続け、郷土文化の伝承とまちの活性化に努めていきます。



大分空港にて国東市マスコットキャラクター「さ吉くん」と女性部員

東特産「七島蘭」の普及活動です。七島蘭は約350年前から国内で生産されてきたカヤツリグサ科の植物で、畳の原材料として使われてきました。イ草と比べて耐久性に優れることから、かつては全国で親しまれていましたが、手作業による負担の多さを理由に生産者が激減。現在では国東半島が国内唯一の生産地となり、生産者はわずか6軒を残すのみとなりました。私たちはこの貴重な文化を未来へつなぐため、七島蘭工芸士の方々から製作技術や歴史を学び、活動を続けています。毎年7月10日の「くにさき七島蘭の日」には、大分空港でもてなしイベントを開催。空港利用者に、女性部手づくりの工芸品（シトラスリボンのストラップやしおりなど）を無料で配付しています。今年は10周年を記念



中学3年生への「願いが叶う輪」贈呈の様子

し「七島」にちなんで710個を製作・配付しました。また、市内の中学3年生には、受験のお守りとして「願いが叶う輪」と名づけた七島蘭のキーホルダーを毎年贈っています。「お守りをもって受験に臨み、無事合格しました！」といううれしい声も届き、大きな励みになっています。これからも、国東の大切な伝統を守りながら、地域に寄り添った活動を続けていきたいと思えます。